

平成24年7月6日

## フレーズリーディングの利点と弱点

前田 浩之

### 概要

いろいろ、フレーズリーディングについて考えてきた。フレーズリーディングは補助輪みたいなものであり、練習を重ねれば、フレーズごとにわかれている文を読んでも構造の理解が得られるばかりでなく、その他の技能を伸ばすことができるメリットがある。十分活用すべきと考える。

.....

何事も100%とはいかない。フレーズリーディングにも利点と弱点がある。予備校でやるような英文解釈法であっても利点と弱点がある。どちらが正しくてどちらが間違いということはないのだ。要はそれぞれの弱点とよい点をつかみ、場合に応じて両方使えるようにすることだ。様々な読み方を獲得し、場合に応じて使い分けできるということは、メタ認知能力があると言え、非常に好ましい。どちらか一方のやり方のみが正しいと言い切る人の言葉は疑った方がよい。くり返しになるが、双方に利点と弱点があるのだ。

まずはフレーズリーディング（スラッシュリーディングとも呼ばれる）の利点を見ていこう。1つには、英文のオンライン処理を促すということだ。知っての通り、漢文の返り読みのように後ろから訳してる状況であれば、読解速度の大きな向上は望めない。また、リスニングのトレーニングをはじめるときの大きな障害にもなる。英文を聞こえた順に前から理解していく必要があるし、大量に読む場合には、前から意味がとれていくほうが断然有利になる。語学力を磨く上で極めて重要な力をフレーズリーディングは養ってくれるのだ。

2つめの利点は、フレーズリーディングをもとにした教材を使うことにより、スピーキング能力、作文能力の向上が見込めるということだ。日本人は最後まで言いたいことを考えてから英文に直そうとする。だから力が伸びない。英文の創出は、実はチャンク単位ということが心理言語学の研究で分かっている。つまりフレーズを順々につないでいく方法を学ぶことはスピーキングできる、作文できるということに大きなメリットを持つ。フレーズリーディングを基点に、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの全ての能力を鍛え上げることが可能であることを考えれば、この能力を獲得しておくことは極めて重要なのは言うまでもないだろう。

一方、フレーズリーディングに対する批判というか誤解も述べておこう。それは「最初からスラッシュを切ってあるモノを読んでも、始めて読む英文については自力でスラッシュを切れるようにはならない」というmythである。これは、「理論を知り、練習をくりかえすうちにできるようになる」というのが僕の結論だ。現に高校生の時にできた。その当時の僕は返り読みしかできなかつたし、偏差値は50台のごく平凡な、どちらかと言うとできない側の人間であった。しかし、スラッシュリーディングとその読み方の理論と出会ったことで自力でスラッシュをひきながら前から読むことを覚え、その結果劇的に偏差値が上がった。偏差値のみならず4技能の力が大幅にアップしたのは思わぬ副産物であった。

ではフレーズリーディングは万能かというところではない。句、節の数が3つ、4つと増えるととたんに理解の点で苦しくなってくるからだ。訳させてみるとしっちゃかめっちゃかになる可能性が高い。よって予備校の先生などは、スラッシュリーディングではなく、句や節の範囲や機能を特定する、(形容詞句) [ 名詞句 ] < 副詞句 > などの判断ができることを最優先し、記号をつけながら読むことを推奨する人も多い。つまり、句、節の機能について十分な知識がないときにスラッシュリーディングさせてもフィーリングで訳してしまう生徒を量産してしまうのではないかという意見である。これは十分理解できる意見である。フレーズリーディングの雄である SIM 外語研究所でも、高校2年生から同研究所が作成した教材(SuperElmer)の使用を勧めている。その理由は句、節の機能を理解できるかどうかにある。つまり文法を一通りわかっており、句、節、修飾関係の理解が十分な状態がフレーズリーディングが成功するか否かのポイントになるのだと思う。修飾関係が理解されていない状態でフレーズリーディングをやろうとすると失敗するのだ。

では高校1年時にはフレーズリーディングは使えないかというところでもない。フレーズリーディングとは、前から順に理解することが主目的だが、やりようによっては、すでに区切られた素材文を使い、既存の文法知識を名詞、形容詞、副詞(句、節)の観点で整理しなおして読む読み方を逆に促進することができるからだ。形容詞句、副詞句、名詞句であれば、中学の知識の延長で教えられるし、句の理解がすすめば、それを足がかりにして節の導入もできる。これはthat節から入るのがよいだろう。SやO, Cの位置にあり、完全な文があれば名詞節となるし、that節のうしろが不完全なら関係詞である。so...thatや、be happy that...では副詞節になる。こういうことをレッスン1に先だって教えてしまう。そして出てくる度にルールの確認をさせるというのが一番よいようだ。フレーズリーディングは句、節の理解が重要であり、精読と相性が悪いわけではないのだ。構造が複雑で返り読みが必要な場合にはそうすればいいだけのことだ。ただ、前述した理由から、練習の結果、最終的には前から意味がとれるようになったほうがいい。

フレーズリーディングの指導で重要になるのが、チャンク（フレーズ）の示し方になる。

A) In a sense …we came … to our capital city … to cash a check.

B) In a sense / we came / to our capital city / to cash a check.

「ドット…」と「スラッシュ/」では、スラッシュのほうがより読みをすることを拒絶している感じがする。なぜならスラッシュは右側に傾いているため、左から右へ視線を誘導する働きが強くあるからだ。一方、ドット … はそのような傾きがないため、左と右とではフラットな関係である。自分にとってやさしい文なら、左から順番に読むことも練習できるし、難しければ、いつでも読みしながら句、節の記号や、修飾関係の矢印を付けることも比較的しやすい。最初から区切ってある素材文を読ませる時は、… でフレーズが区切れているほうが、/と違って使い勝手がよいのだ。また、最初から区切れ目がはっきりしているため、句、節の機能を考えさせるという目的に注意資源を集中させやすいというメリットもある。最初から考えさせるより認識のための敷居は低くなる点も注意したい。

例

In a sense …we came … to our capital city … to cash a check.

At the edge … of a great forest … there lived a man.

Considerable thought … about the difference … between women who have made it and those who have not … makes it clear … what the main factor of success is.

次に教材のレイアウトを見ていこう。レイアウトは重要である。どのように素材を見て欲しいか、こちら側である程度演習（練習）内容を規定してしまうからだ。

コラムナーリーディングというものがある。縦にチャンクを並べてしまうモノだ。そして、上から順番に読んでいく。これは自力で句、節の範囲を特定して読んでいくという目的にはすぐわかないことは誰にでもわかるだろう。どちらかと言うと構造の理解が終わった文について行う、音読や暗唱の練習向きのレイアウトである。

At the edge	端に
of a great forest	大きな森の（端に）
there lived a man.	ある男が住んでいた。

ただし、次のように階段状にすると、修飾関係や、並列関係、主語述語の構造などはっきりわかる。これも、構造の理解が終わった後の練習で使えるレイアウトである。しかし、あるいはこのようなプリントを作り、語句や和訳の一

部をぬいておいて生徒に渡せば、理解させる時間の節約につながる効果も得られる。下の文が読みやすいとするならば、本来脳がやるべき分類、認知をプリントが代行してくれているからだ。難点は、自力で構造を読み取るチャンスを奪っていることにある。

Considerable thought	(かなり)考えてみると
about the difference	違いについて
between women who have made it	(成功した)女性と
and those who have not	(成功しなかった)女性の(違いを)
makes it clear	はっきりわかる
what the key to success is.	成功の(かぎ)は何なのかが。

次に横にいっぱい広げるタイプを見てみよう。

Considerable thought … about the difference … between women who have made it and those who have not … makes it clear … what the main factor of success is.

これだと個人で句、節を考えさせるトレーニングに使いそうだ。ただし、授業中生徒同士でペアになって英語→和訳、和訳→英語 という通訳訓練をさせるには使いにくい。別にプリントを作ればいいたろうという声が聞こえてくるが、めんどくさいし、たくさんプリントもらう生徒も迷惑だ。よって次のレイアウトを提案したい。以下は私が20年前から使っているレイアウト。

英語から和訳しよう。 逆に 和訳をみて英訳してみよう。

Considerable thought ... about the difference ... ( ) 考えてみると ...違いを...  
 between women who have made it and those who ( ) した女性と ( )  
 have not ... makes it clear ... what the key to ( ) ... はっきりわかる ...(  
 success is. ( )かが。

どうであろうか、構造分析と、フレーズリーディングの融合、そして、英語→和訳、和訳→英語のトレーニングが一人でもペアでもできるレイアウトになっていることと思う。単語の意味を調べる場合も、( ) の意味にあうものを選んでこなくてはならない。例えばmake itには間に合うの他、うまくいく、成功するなどの意味があるが、文脈に照らし合わせて選ばせればよい。多義語対策にもなるのだ。

「こんなのは最初からフレーズごとになっているから、自力でカタマリをとらえる訓練になってない」という方が必ずいると思うが、[...]なしの、単語を変えた文を用意してやらせればいいだけの話だ。きっと、最初から訳させるより、句、節の切れ目や、機能を意識した訳ができあがるはずだ。これは教科書の文全文やらせる必要はなく、ターゲットとする項目を含んだ文で行えばよい。

Considerable thought about the relationship between this event and that one makes it clear why those things happen.

最後に

いろいろ、フレーズリーディングについて考えてきた。フレーズリーディングは補助輪みたいなものであり、練習を重ねれば、フレーズごとにわかれている文を読んでも構造の理解が得られるばかりでなく、その他の技能を伸ばすことができるメリットがある。十分活用すべきと考える。

前田浩之



